

2015年度

福井県内生協における ボランティア活動のまとめ

生協名	種 類	活 動 日	取 り 組 み 内 容
県庁生協	震災支援	通 年	東日本大震災への募金活動（各売店レジ前にて）
	福 祉	通 年	収集（収集箱を設置。使用済み切手・ベルマーク等）
	環 境	9月 5日 9月12日	第 19 回海岸クリーンアップボランティア参加
学校生協	福 祉	通 年	収集（収集箱を設置。使用済み切手・コイン・はがき等）
	環 境	9月 5日 9月12日	第 19 回海岸クリーンアップボランティア参加 参加人数 4 名
大学生協	福 祉	通 年	収集（収集箱を設置。使用済み切手・コイン等）
	環 境	月1回金曜日	キャンパス清掃
	国際協力	隔週木曜日	留学生とのお話会
	交通安全	6月20日	交通安全の日（自転車無料点検）
	健 康	6月27日 12月4日	アルコールパッチテスト 福大健康祭（食生活相談・消費者教育・健康提案）
菅浜生協	環 境	4月21日	ゴミブリ団子作り及び農改センター清掃
		5月31日	公園・神社 清掃 草刈り
		6月14日	菅浜弁天参道除草・清掃
		6月20日 7月19日	生協前花壇植栽活動
		9月14日	公園・神社 清掃 草刈り
	教 育	5月25日・26日	炭焼き体験（神奈川 大和中学）
		9月12日 11月14日	炭焼き体験（美浜東小学校）
県民生協	震災支援	5月30日 6月18日	宮城県福祉施設などの手づくり商品を 福井県消費者フォーラム、総代会にて販売支援。
		7月末～8月上旬 12月末～1月	福島子ども保養プロジェクト実施団体への食材支援。 （「福井市殿下地区」「テラネット」「真宗大谷派」 「福井市自然体験交流推進協議会」4 団体、6 回、約 160 名の方への提供。）
		12月 2月	東北 3 県生協を通じて仮設住宅でのサロン活動に 組合員さんのメッセージとお菓子を提供支援。（528 袋）
		3月5日	「あの日のことを忘れない」 陸前高田市 語り部 釘子さんの講演。（120 名参加）
	災害支援	9月11日～	台風 18 号豪雨水害への募金。茨城県へのボランティアバスに職員 2 名参加。
	生活支援	7月・10月・3月	生活困窮者への食料支援（福井県社会福祉協議会の要請を受けて）
	福 祉	12月	「歳末たすけあい共同募金」を実施。福井県共同募金会に持参。
		通 年	収集（収集箱を設置。使用済み切手・ベルマーク・コイン等）
	環 境	9月 5日 9月12日	第 19 回海岸クリーンアップボランティア参加



生協名	種 類	活 動 日	取 り 組 み 内 容
医療生協	福 祉	通 年	健康チェック～問診・健康相談・血管年齢測定・骨密度測定など （会場：県内スーパーマーケット、公民館、学校など）
		通 年	町内会役員さんと連携（毎日赤いリボンで安否確認）
		通 年	地区内のひとり暮らし高齢者宅への訪問対話
		通 年	高齢者のみなさんと介護予防・昼食・温泉・お出かけ
	震災支援	通 年	収集（収集箱を設置。使用済み切手・ベルマーク等） 「福島子ども応援団募金」「震災支援活動募金」 被災地の医療生協の健康まつりなどへ福井の物産品提供
労済生協	福 祉	通 年	収集（収集箱を設置。使用済み切手・ベルマーク・エコキャップ等）
	震災支援	9月5日	第 19 回海岸クリーンアップボランティア参加
福井県生協連合会	震災支援	12月 1日～ 12月11日	「被災地の子ども達に絵本を贈ろう」活動実施 （全国 2,636 冊）
	震災支援	5月	「福井県消費者総合フォーラム・交流展」にて東日本応援商品の即売。 「つながろう CO・OP アクションくらし応援募金」に募金。
	震災支援	8月～3月	会員生協のボランティア活動支援（東日本大震災復興支援活動部門） として、2 生協に助成。
	福 祉	11月～2月	「生協ボランティア月間」として会員生協に 収集ボックスを配付し使用済み切手などを収集。
	福 祉 環 境 他	8月	会員生協のボランティア活動支援（一般活動部門）として、 3 生協（地域活動）に助成。
	環 境	9月	第 19 回海岸クリーンアップボランティアを 2 会場（鷹巣 9 月 5 日・三国 9 月 12 日）で実施し、374 名の参加。



3.11 を忘れない

～ひとの復興～

心配なのは次のステップが見えない人たち

みやぎ生協から被災地・宮城のいまをお伝えします

復興公営住宅の整備にともない仮設住宅の入居者は目に見えて減少しています。石巻市は入居率が3割を下回りそうな仮設団地から集約化の方針を立てました。しかし4月現在具体的な計画を住民に示すまでには至っていません。

「石巻市には133ヵ所の仮設団地がある。そこを集約するのは至難の技だが、住民が今後の身の振り方を考えられるよう、早く決めてほしい」。そう話すのは、仮設住宅と復興公営住宅のコミュニティづくりに取り組む一般社団法人石巻じちれん会長の増田敬さんです。

現在、市内の仮設団地入居世帯は3,951（※）。集約化を進めるため市は、様々な事情で復興公営住宅の申込みができない人や経済的に厳しく自立が難しい人たちを支援する仕組みをつくらうとしています。

石巻じちれん事務局長の内海徹さんは「復興公営住宅などの完成を待つ人たちは明日が見えているからまだいい。心配なのは経済的な理由で次のステップが見えない人たち」と言います。活動のなかで生活困窮者や健康に問題を抱えた住民に出会うことがあり、そうした場合は見守り続けながら専門機関につなぐようにしています。

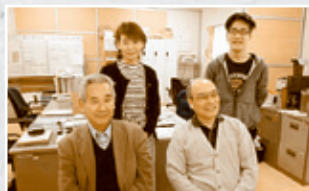
最初は生活再建めざして一生懸命に動いていても5年経つうちに

意欲が薄れてしまい、仮設住宅を出ようという気力が無くなった。そんなケースも見かけるそうです。「狭い仮設住宅では趣味を楽しむ余裕もなく、ただ寝るだけ。本当の生活じゃない」と増田さんは顔を曇らせました。

入居者の減少で自治会役員の担い手がいなくなると、住民同士の交流機会も減ります。石巻じちれんは、集会所の鍵を管理する住民を窓口に着実にコンタクトを取れるようにしておき、石巻じちれん開催のカラオケ温泉ツアーや観桜会などの交流イベントに参加を呼びかけて家のなかに閉じこもっている人を一人でも多く外に誘い出すようにしています。

生活再建の方法がまだ見えない住民は集約による転居、その後の住まい、経済的問題と不安が消えることはありません。石巻じちれんのように親身に寄り添って支える存在が、被災地ではますます重要性を増しています。

石巻じちれんの事務局の皆さん。▶
前列左から会長の増田敬さん、
事務局長の内海徹さん。後列
左からスタッフの阿部由記さん、
熊谷基さん。



※「応急仮設住宅一覧」（平成28年4月1日現在、石巻市）